

NEWS LETTER

14時30分解禁

2022年7月 全国百貨店売上高概況

2022年8月23日

I. 概況

1. 売上高総額	4,391億円余
2. 前年同月比（増減率）	9.6%（店舗数調整後／5か月連続プラス）
3. 調査対象百貨店	71社 187店（2022年6月対比－1店）
4. 総店舗面積	4,896,872㎡（前年同月比：－1.1%）
5. 総従業員数	55,790人（前年同月比：－3.1%）
6. 3か月移動平均値 （店舗数調整後）	12-2月 8.1%、1-3月 6.4%、2-4月 7.4%、 3-5月 22.8%、4-6月 26.3%、5-7月 22.0%

〔参考〕2021年7月の売上高増減率は4.2%（店舗数調整後）

【特徴】

7月の売上高は、増勢が続く高額商材に加え、外出機会の増加や気温上昇で夏物が好調だったことから9.6%増となり、入店客数も9.0%増と、共に5か月連続プラスとなった。

月の前半は、多くの店舗でクリアランスがスタートし（前年は6月末）好調な滑り出しだったが、後半からは新型コロナ感染急拡大や、猛暑による主要顧客層の外出自粛が影響するなど、月半ばを境にやや商況が変化した。コロナ前との比較（2019年比）では、売上高は前月より2.2ポイントアップの9.1%減と、月間の平均値で見れば回復基調は続いている。

顧客別では、国内市場は8.1%増（5か月連続／シェア97.7%）、インバウンドは政府による水際対策緩和等から163.0%増（4か月連続／シェア2.3%）となった。2019年比では、国内市場は5.7%減と、コロナ前の実績を超える店舗も多く見られたが、インバウンドは63.7%減と、依然として厳しい状況にある。

地区別では、全地区で対前年増となった大都市（10都市／10か月連続）が12.7%増と二桁増を示した。地方（10都市以外の地区／4か月連続）でも3地区で前年割れとなったが、合計では1.6%増と前年実績を確保した。

商品別では、ラグジュアリーブランドや時計、宝飾品等高額品が引き続き高伸している他、天候与件や行楽需要から盛夏商材や旅行用品も動いた。一部外資系ブランド等では、価格改定前の駆け込みも見られた。衣料品は、一部店舗で生産調整等によるセール品の在庫が不足する中、プロパー品への需要が高まり二桁増と健闘した。食料品は、世界情勢の影響による価格高騰などから生鮮食品で苦戦が続くが、和洋菓子は中元や夏休みの帰省需要など土産ニーズの拡大により好調を維持している。

第7波の感染拡大が続く中であって、中元商戦の後半はWEBを中心に健闘しており、ほぼ前年並みで推移している。

【要因】

(1) 天候：気象庁発表「7月の天候」の特徴は以下のとおり（一部抜粋）

◇月平均気温は全国的に高く、特に北日本ではかなり高かった。降水量は北日本日本海側でかなり少なかった一方、北・東・西日本太平洋側で多かった。また、日照時間は北・東日本日本海側で多かった。

(2) 営業日数増減 31.0日（前年同月比 +0.1日）

(3) 土・日・祝日の合計 11日（ 〃 土0日／日曜1日増、祝日1日減）

(4) 入店客数増減（回答店舗数で見ると傾向値／前年同月比／有効回答数109店舗）

①増加した：70店、②変化なし：19店、③減少した：20店

(5) 7月歳時記（中元、クリアランス、夏休み）の売上（同上／有効回答数86店舗）

①増加した：15店、②変化なし：38店、③減少した：33店

全国百貨店 売上高速報 2022年7月

第1表 地区別売上高

※店舗数調整後（ ）が調整前

地 区	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率(%) ※
全 国	439,147,962	100.0	9.6 (9.2)
10都市	325,827,402	74.2	12.7 (12.5)
札幌	10,948,358	2.5	18.3
仙台	6,602,892	1.5	8.1
東京	124,845,947	28.4	17.6
横浜	28,434,004	6.5	11.9
名古屋	30,768,943	7.0	7.7
京都	17,949,711	4.1	7.8
大阪	68,179,366	15.5	10.3
神戸	11,380,926	2.6	8.2
広島	9,056,661	2.1	5.2 (-0.1)
福岡	17,660,594	4.0	10.1
10都市以外の地区	113,320,560	25.8	1.6 (0.7)
北海道	925,428	0.2	13.6
東北	4,688,845	1.1	4.9 (-0.4)
関東	49,966,061	11.4	4.4
中部	8,044,649	1.8	1.3 (-6.8)
近畿	16,105,919	3.7	-4.0
中国	8,813,497	2.0	3.5
四国	6,043,303	1.4	-4.5
九州	18,732,858	4.3	-0.7

第2表 商品別売上高

商 品 別	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率(%) ※
総 額	439,147,962	100.0	9.6 (9.2)
紳士服・洋品	21,658,546	4.9	11.0 (10.6)
婦人服・洋品	72,495,867	16.5	15.5 (14.9)
子供服・洋品	5,987,184	1.4	-0.4 (-0.8)
その他衣料品	7,368,538	1.7	3.5 (3.2)
衣 料 品	107,510,135	24.5	12.7 (12.2)
身のまわり品	67,140,777	15.3	21.8 (21.6)
化粧品	31,118,797	7.1	11.4 (11.3)
美術・宝飾・貴金属	43,541,014	9.9	22.0 (22.0)
その他雑貨	12,320,074	2.8	5.1 (4.8)
雑 貨	86,979,885	19.8	15.5 (15.3)
家 具	4,176,414	1.0	2.3 (1.9)
家 電	1,051,782	0.2	17.8 (17.8)
その他家庭用品	9,976,974	2.3	-3.7 (-4.6)
家 庭 用 品	15,205,170	3.5	-0.9 (-1.6)
生 鮮 食 品	24,049,364	5.5	-5.9 (-6.8)
菓 子	37,962,498	8.6	5.0 (4.6)
惣 菜	28,422,638	6.5	0.2 (-0.1)
その他食料品	48,260,806	11.0	-0.8 (-1.1)
食 料 品	138,695,306	31.6	0.0 (-0.5)
食 堂 喫 茶	9,764,999	2.2	29.6 (28.8)
サ ー ビ ス	3,940,496	0.9	20.0 (19.5)
そ の 他	9,911,194	2.3	0.2 (0.1)
商 品 券	12,054,766	2.7	-6.8 (-7.1)

注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。商品券は総額に含まれません。また、商品券の構成比は総額に対する比率です。本統計には消費税は含まれておりません。

Ⅱ. 地区別の動き

- | | |
|------------------|--------------------------|
| 1. 10都市売上動向 | 12.7% (店舗数調整後／10か月連続プラス) |
| 2. 10都市以外の地区売上動向 | 1.6% (店舗数調整後／4か月連続プラス) |

【地区別売上前年比の寄与度とトレンド】

地区	売上前年比 (増減率)	寄与度	トレンド
10都市	12.7	9.2	10か月連続プラス
札幌	18.3	0.4	5か月連続プラス
仙台	8.1	0.1	5か月連続プラス
東京	17.6	4.7	11か月連続プラス
横浜	11.9	0.8	5か月連続プラス
名古屋	7.7	0.6	10か月連続プラス
京都	7.8	0.3	10か月連続プラス
大阪	10.3	1.6	10か月連続プラス
神戸	8.2	0.2	5か月連続プラス
広島	5.2	0.1	5か月連続プラス
福岡	10.1	0.4	10か月連続プラス
10都市以外の地区	1.6	0.4	4か月連続プラス
北海道	13.6	0.0	3か月連続プラス*
東北	4.9	0.1	3か月連続プラス*
関東	4.4	0.5	5か月連続プラス
中部	1.3	0.0	4か月連続プラス
近畿	-4.0	-0.2	4か月ぶりマイナス
中国	3.5	0.1	4か月連続プラス*
四国	-4.5	-0.1	5か月ぶりマイナス
九州	-0.7	-0.0	4か月ぶりマイナス*

(注) 北海道、東北、中国、九州については、2006年1月からそれぞれ札幌、仙台、広島、福岡を10都市に移行した。(2005年までは6大都市)

Ⅲ. 商品別の動き

主要5品目は、衣料品、身のまわり品、雑貨はプラスとなったが、家庭用品、食料品はマイナスとなった。その他の品目は、紳士服・洋品、婦人服・洋品、化粧品が5か月連続でプラスとなったほか、美術・宝飾・貴金属が18か月連続でプラスとなった一方、子供服・洋品、生鮮食品が2か月連続でマイナスとなった。

【商品別売上前年比の寄与度とトレンド】

商品別	売上前年比 (増減率)	寄与度	トレンド
総額	9.6	—	5か月連続プラス
紳士服・洋品	11.0	0.5	5か月連続プラス
婦人服・洋品	15.5	2.4	5か月連続プラス
子供服・洋品	-0.4	-0.0	2か月連続マイナス
その他衣料品	3.5	0.1	4か月連続プラス
衣料品	12.7	3.0	5か月連続プラス
身のまわり品	21.8	3.0	10か月連続プラス
化粧品	11.4	0.8	5か月連続プラス*
美術・宝飾・貴金属	22.0	2.0	18か月連続プラス*
その他雑貨	5.1	0.1	4か月連続プラス*
雑貨	15.5	2.9	10か月連続プラス
家具	2.3	0.0	4か月連続プラス
家電	17.8	0.0	2か月ぶりプラス
その他家庭用品	-3.7	-0.1	4か月ぶりマイナス
家庭用品	-0.9	-0.0	4か月ぶりマイナス
生鮮食品	-5.9	-0.4	2か月連続マイナス*
菓子	5.0	0.5	11か月連続プラス*
惣菜	0.2	0.0	11か月連続プラス*
その他食料品	-0.8	-0.1	7か月ぶりマイナス*
食料品	0.0	-0.0	10か月ぶりマイナス
食堂喫茶	29.6	0.6	5か月連続プラス
サービス	20.0	0.2	4か月連続プラス
その他	0.2	0.0	4か月連続プラス
商品券	-6.8	-0.2	2か月連続マイナス

(注) 化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、生鮮食品、菓子、惣菜、その他食料品については2006年1月から細分化した。

2022年7月 東京地区百貨店売上高概況

2022年8月23日

I. 概況

1. 売上高総額	1, 248億円余
2. 前年同月比（増減率）	17.6%（11か月連続プラス）
3. 店頭・非店頭 の増減	店頭17.5%（90.2%）：非店頭19.1%（9.8%） （ ）内は店頭・非店頭の構成比
4. 調査対象百貨店	12社 24店（2022年6月対比±0店）
5. 総店舗面積	795,202㎡（前年同月比：-1.1%）
6. 総従業員数	14,894人（前年同月比：-5.1%）
7. 3か月移動平均値	12-2月 12.9%、1-3月 13.2%、2-4月 14.2%、 3-5月 33.1%、4-6月 34.3%、5-7月 30.2%

[参考] 2021年7月の売上高増減率は8.0%

【特徴】

- (1) 7月の東京地区は、売上高17.6%増(11か月連続)、入店客数18.4%増(10か月連続)と、前年実績を上回った。月後半はコロナ感染急拡大による客数減が見られたが、影響は限定的で、高額品の活況や夏物衣料の伸長が月全体の売上を牽引した。コロナ前の2019年比では、売上高は8.4%減、免税売上を除いた国内売上では2.4%減と、引き続き回復傾向を維持している。なお、入店客数は25.8%減であった。
- (2) 商品別では、4か月連続で主要5品目全てプラスとなった。衣料品(23.7%増/10か月連続)は、早期の梅雨明けと記録的な猛暑で、紳士、婦人、子供服共に盛夏商材が好調に推移し、特にカジュアル衣料やサンダル動きが好調だったほか、晴雨兼用傘、帽子、サングラスが伸長した。更に夏休みの行楽需要を受け、アウトドアやトラベル用のアイテムにも動きが見られた。
- (3) 身のまわり品(35.4%増/11か月連続)や雑貨(24.2%増/11か月連続)は、ラグジュアリーブランドの高伸で前年比3割前後の増加で推移した。また、一部海外ブランドの時計等高額品や化粧品では、価格改定前の駆け込み需要も見られた。
- (4) 食料品(2.4%増/11か月連続)は、月後半の客数減の影響を受け、生鮮食品(5.4%減)が苦戦したが、菓子(10.8%増)は手土産・ギフト需要が継続し依然好調を維持している。中元商戦は店頭・ネット共にほぼ前年並みで推移している。
- (5) 8月中間段階の商況は、前年のデルタ株によるコロナ感染急拡大による反動から、前年比約35%増(8/17時点)で推移している。

【要因】

- (1) 営業日数増減 31.0日（前年同月比 ±0.0日）
- (2) 入店客数増減（回答店舗数で見える傾向値／前年同月比／有効回答数17店舗）
①増加した：16店、②変化なし：0店、③減少した：1店
- (3) 7月歳時記（中元、クリアランス、夏休み）の売上（同上／有効回答数13店舗）
①増加した：6店、②変化なし：4店、③減少した：3店

東京地区百貨店 売上高速報 2022年7月

	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率(%)
総 額	124,845,947	100.0	17.6
紳士服・洋品	8,111,890	6.5	17.8
婦人服・洋品	17,581,953	14.1	28.2
子供服・洋品	1,608,175	1.3	17.7
その他衣料品	1,872,202	1.5	16.3
衣 料 品	29,174,220	23.4	23.7
身のまわり品	20,528,828	16.4	35.4
化粧品	8,933,180	7.2	15.4
美術・宝飾・貴金属	15,251,649	12.2	34.4
その他雑貨	4,179,653	3.3	11.3
雑 貨	28,364,482	22.7	24.2
家 具	1,430,669	1.1	14.5
家 電	725,200	0.6	24.7
その他家庭用品	2,783,279	2.2	-0.7
家 庭 用 品	4,939,148	4.0	6.6
生 鮮 食 品	4,595,332	3.7	-5.4
菓 子	10,043,471	8.0	10.8
惣 菜	7,199,968	5.8	1.6
その他食料品	13,482,027	10.8	0.0
食 料 品	35,320,798	28.3	2.4
食 堂 喫 茶	2,312,376	1.9	50.5
サ ー ビ ス	1,903,274	1.5	36.4
そ の 他	2,302,821	1.8	-7.7

注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。

本統計には消費税は含まれておりません。

		対前年増減(-)率(%)
商 品 券	2,559,924 千円	-2.8
従 業 員 数	14,894 人	-5.1
店 舗 面 積	795,202 m ²	-1.1

営 業 日 数	31.0 日	前 年	31.0 日
---------	--------	-----	--------

Ⅱ. 商品別の動き

主要5品目は、全ての品目がプラスとなり、衣料品、身のまわり品、雑貨が二桁増となった。その他の品目は、子供服・洋品、家具、家電が2か月ぶりにプラスとなったほか、菓子、惣菜が17か月連続でプラスとなった一方、生鮮食品が2か月連続でマイナスとなった。

【商品別売上前年比の寄与度とトレンド】

商品別	売上前年比 (増減率)	寄与度	トレンド
総額	17.6	—	11か月連続プラス
紳士服・洋品	17.8	1.2	9か月連続プラス
婦人服・洋品	28.2	3.6	11か月連続プラス
子供服・洋品	17.7	0.2	2か月ぶりプラス
その他衣料品	16.3	0.2	5か月連続プラス
衣料品	23.7	5.3	10か月連続プラス
身のまわり品	35.4	5.1	11か月連続プラス
化粧品	15.4	1.1	11か月連続プラス*
美術・宝飾・貴金属	34.4	3.7	18か月連続プラス*
その他雑貨	11.3	0.4	5か月連続プラス*
雑貨	24.2	5.2	11か月連続プラス
家具	14.5	0.2	2か月ぶりプラス
家電	24.7	0.1	2か月ぶりプラス
その他家庭用品	-0.7	-0.0	4か月ぶりマイナス
家庭用品	6.6	0.3	4か月連続プラス
生鮮食品	-5.4	-0.2	2か月連続マイナス*
菓子	10.8	0.9	17か月連続プラス*
惣菜	1.6	0.1	17か月連続プラス*
その他食料品	0.0	0.0	2か月ぶりプラス*
食料品	2.4	0.8	11か月連続プラス
食堂喫茶	50.5	0.7	5か月連続プラス
サービス	36.4	0.5	4か月連続プラス
その他	-7.7	-0.2	5か月ぶりマイナス
商品券	-2.8	-0.1	2か月連続マイナス

(注) 化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、生鮮食品、菓子、惣菜、その他食料品については2006年1月から細分化した

お問い合わせは、日本百貨店協会 橘・長柴 まで
TEL 03-3272-1666 ホームページアドレス <http://www.depart.or.jp>